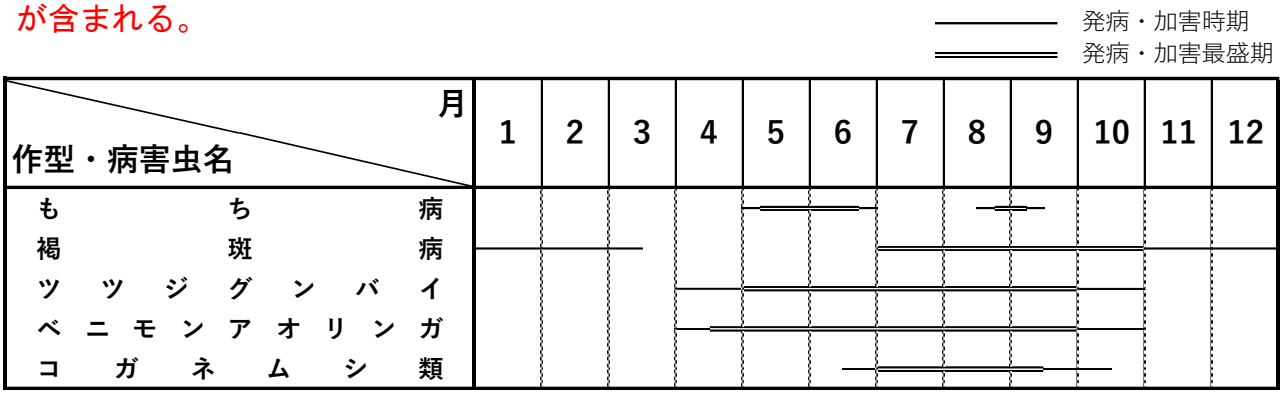
つつじ類

「つつじ類」には「アザレア」「おおむらさき」「くるめつつじ」「さつき」「しゃくなげ」が含まれる。



もち病

留意事項

1 SDHI剤≪７≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 被害部はほ場外に持ち出し処分する。

2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。

・Zボルドー ＜Ｍ１＞【500倍　発病初期／－】

・バシタック水和剤75 ≪７≫【1000倍　発病初期／8回】

褐斑病

防除方法

1 被害葉はほ場外に持ち出し処分する。

2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。

・ダコニール1000 ＜Ｍ５＞【1000倍　発病前～発病初期／6回】

3 発病したら、下記の薬剤を散布する。

・トップジンM水和剤 ＜１＞【樹木類　1000～1500倍　発病初期／5回】

ツツジグンバイ

留意事項

1 幼虫・成虫とも葉裏に生息しているので、薬液散布の際は葉裏を中心に散布する。

防除方法

1 発生を認めたら、下記の薬剤を施用する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　発生初期／5回】

・トレボン乳剤 ＜３Ａ＞【2000倍　－／6回】

・オルトラン水和剤 ＜１Ｂ＞【1500倍　発生初期／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ガゼット粒剤 劇 ＜１Ａ＞
【10g／株(但し、18kg/10aまで)　株元散布　生育期／1回】
・モスピラン粒剤 ＜４Ａ＞【3～6kg／10a　株元散布　発生初期／1回】
・アドマイヤー1粒剤 ＜４Ａ＞【6kg／10a　株元散布　発生初期／5回】

ベニモンアオリンガ

留意事項

1 幼虫が新芽やつぼみに食い入り、内部を食い荒らす。新芽周辺を探しても見つからないことが多い。1匹で多くの芽をかじるので被害の割に虫は少ない。
2 翌年のつぼみができる7～8月の発生に注意する。

防除方法

1 被害芽はほ場外に持ち出し処分する。
2 新芽のしおれや赤枯れの発生がみられたら、下記の薬剤を散布する。
・オルトラン液剤 ＜１Ｂ＞【250～500倍　発生初期／5回】
・チューリサイド水和剤 ＜１１Ａ＞【1000倍　発生初期／－】

コガネムシ類

防除方法

1 苗木の定植時に幼虫が生息している場合には、下記の薬剤を施用し、土壌とよく混和する。
・フォース粒剤 劇 ＜３Ａ＞
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　全面土壌混和　植付時／1回】
・アクタラ粒剤5 ＜４Ａ＞
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　全面土壌混和　植付時／1回】
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　株元散布　生育期／1回】
・オンコル粒剤5 ＜１Ａ＞
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　全面土壌混和または株元土壌混和　定植時／1回】
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　全面土壌混和または株元土壌混和　生育期／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。